

第26回防衛問題セミナー実施概要

装備品の研究開発と防衛産業



当日の会場の様子

平成27年8月5日（水）神奈川県相模原市の相模女子大学グリーンホールにおいて、「第26回防衛問題セミナー」を開催しました。今回のセミナーは、『装備品の研究開発と防衛産業』をテーマに、陸上装備研究所における装備品の研究開発について、技術研究本部陸上装備研究所の山口弘所長から、また、防衛装備品の基盤の多くは民間の防衛産業が担っていることから、防衛産業の現状と未来について、防衛ジャーナリストの桜林美佐氏から講演していただき、装備品の研究開発や防衛産業への理解を得るために開催しました。

当日は、主催者である丸井南関東防衛局長から開会挨拶があり、引き続き、講演に入りました。



丸井南関東防衛局長

山口講師からは、陸上装備研究所の紹介から始まり、大規模災害や国際平和協力活動等の対応の際に「自衛隊員の被害・損傷を最小限にする」ために陸上装備研究所が研究・開発に取り組んでいる遠隔操縦作業車両システム等についての具体的な説明がありました。聴講者からは、「研究中のテーマを説明していただき大変参考になった」（50代男性）、「どのような研究開発をしているか理解できた」（30代男性）という感想が寄せられました。



山口講師

桜林講師からは、装備品の調達が減少し、国内企業が事業から撤退するといった事象が起きているが、日本の技術は非常に高く評価されており、国産で装備品を製造できる技術を持っていることに大きな意味があること、その一方で輸入も大切であるという防衛産業の抱える課題、また、装備品の海外移転は外交安全保障の施策として有益ではあるが、国が一体となってサポートする体制が必要といった説明がありました。聴講者からは「防衛産業の実情が分かりやすく説明されていた」（50代男性）、「防衛産業が抱える問題を多くの視点で説明され勉強になった」（50代男性）という感想が寄せられました。



桜林講師